



生きる力を知っている

鶴岡稔久さん

「動物の特性、動きを知っていれば」

小動物飼養販売管理士の鶴岡稔久さん

(町屋在住) は、世界各地の動物園から

の依頼を受けて捕獲を行っています。

北海道の離島で海に

潜ると好奇心旺盛なト

ドが二十頭近く寄って

来て囲まれたそうです

が、好奇心旺盛な性格

と知っていたので、三百キロ近い大き

さのトドでも怖さは感じなかったそう

です。

「ワニの捕獲は大変でした。」

フィリピンの動物園での

依頼でジャングルに入りま

した。池に流血した鶏を投

げるとワニが食いつき、二

人で頭を抱え、尾を抱えて

陸に上げて捕まえました。ヘビは呼吸

に合わせてなどそれぞれの動物の特性

や性格、動きを知ることによって捕獲できる

そうです。

「生きる力があれば、生きる」



鶴岡さんは各国の未開のジャングル内に入り、マラリア、テング熱、破傷風など色々な病にかかり、その度に克服し生還してきました。

「野草は、噛んで食べられるか確認します。」

鶴岡さんは小学三年より不登校となり、群馬県での山村留学に行きました。一人で山に入り塩、水筒、

味噌、ナイフだけを持つ

て一週間過ごす体験を

行いました。野草は

噛んで苦味がなければ

一口食べ、腹痛を起こ

さなければ食べられる

と話されていました。

竹を割り、擦って火起しができるなど、

野営をすることで生き抜く為の技術や精神力を養いました。

「子どもにも動物や植物の素晴らしさを伝えたい」

持参された大トカゲの子どもは脱皮中で50cm位でしょうか。大人たちはわさわ

さと動揺していましたが、子どもたちは興味津々でした。

「子どもたちの心を開く人です」

あらかわ応援ネットワーク代表 大村み

さ子さんは、鶴岡さんは子どもたちに奇

跡を起す人と話されていきます。尾久

の原公園(旧旭電

化工業尾久工場跡地)の池に子ども

たちの先頭に立っ

て入って行く鶴岡さんに色々な困難を抱

えた子どもたちが付いていくそうです。

生きとし生けるもの、あらゆる生物に

愛情を注ぐ鶴岡さんは、お会いすると素

敵な優しい笑顔の方でした。鶴岡さん

のお話はとても面白く、死期を悟った動物

が群れを離れる話など拝聴しました。

鶴岡さん自身が生き辛さを抱えた子ど

も時代を過ごしたからこそ、寄り添う温

かさはインソップ寓話「北風と太陽」の太

陽のように子どもを解きほぐしてい

くのでしょうか。

コロナ渦、誰もが見えないことへの不

安を抱える中、経済的、精神的に生き辛

さを抱えた子どもが多くいます。

鶴岡さんの枠にとらわれず、自分の好

きな道に進んで生き抜く姿は子どもたち

に希望を与える気がしました。動物園を

作って子どもたちを楽しませたいという

鶴岡さんの希望が早く実るといいなあと

感じました。

